

地域における鳥獣被害

——離島（大崎上島町）におけるイノシシ被害の現況——

○広島国際大学 諫山憲司
広島商船高等専門学校 柴山 慧
広島大学 布施正暁
沖縄大学 宮城能彦

1 目的

近年、野生鳥獣の生息域が広がり、中山間地域や島嶼部で森林・農作物被害が発生し、深刻な問題となっている。さらに離島では、若年層の流出による超少子高齢化と人口減少が顕著で、この地域事情と鳥獣被害が密接に関連している。本報告の目的は、地域における鳥獣被害の現況を整理し、被害と地域社会との関わりについて検討することである。

2 方法

瀬戸内海の離島（広島県豊田郡大崎上島町、以下本島）における鳥獣被害の現況を役場の農林水産係資料〔平成 22 年から平成 27 年度の 1) 有害鳥獣捕獲実績、2) 野生鳥獣による農作物の被害状況調査票〕と平成 28 年 5 月、本島住民のイノシシ捕獲許可者 35 名（猟友会 14 名・一般農家 21 名）を対象に、鳥獣処理施設整備についての意向調査から、データ・意見を整理し、検討した。

3 結果

本島の有害鳥獣としてイノシシ、カラス、タヌキ、河鵜、シカがリストアップされており、捕獲・被害共に最も多いのはイノシシであった。イノシシの捕獲数・被害額は年々増加し、平成 27 年度では 845 頭・約 900 万円となっている。イノシシは、町内全域で目撃され、特に穀物、林産物、柑橘の被害が多い。捕獲の熟練度によって、捕獲数（昨年度）の違いが大きい（0～150 頭）。埋却作業負担から、迅速な施設整備を望むが、希望設定使用料は様々である。捕獲者の担い手不足、処理施設への運搬労力不足、そもそも捕獲は、地域貢献としての活動であるにも関わらず、料金徴収は不合理、ジビエとして食用活用を希望するなどの意見があった。

4 結論

鳥獣被害の要因として、小雪化や暖冬傾向によって、特定の野生鳥獣が著しく個体数を増加させている一方、狩猟人口が減少し、中山間地域や島嶼部における水田の耕作放棄や薪炭林の管理放棄といった人間による土地利用の変化が考えられる。農家減少率と耕作放棄地率が高い地域ほどイノシシによる農業被害が多いことから、耕作放棄地がイノシシにとって好適な生息場所になり、イノシシの行動圏拡大や個体数を増加させるだけでなく、本島生態系のアンバランスを助長させ、地域社会の様々な要因が複合的に絡み合い被害拡大に繋がっていると考えられる。

本島でのイノシシ捕獲数、被害額の増加推移から、今後もイノシシの被害拡大が予測される。平成 29 年度以降、有害鳥獣処理施設の整備が計画されており、処理促進により間接的に捕獲数が増え、被害縮小が期待される。本島は、架橋されていない離島であることから、外部からシカ等が増加し被害が拡大する可能性は低い反面、イノシシが島外へ流出する可能性は低く、島内で被害対策を講ずる必要がある。さらに、処理施設整備後も捕獲・駆除の担い手不足、処理施設への運搬労力、被害経験や居住区の地域性等から地区内でも住民によって被害対策への考えや温度差が大きいことなど地域事情に関わる問題が残る。これらのことから、イノシシの食用活用などを視野に入れた地域創生の視点からも地域が一体となったイノシシ被害軽減対策が必要である。

文献

武山絵美・笹山新生・野中仁智・九鬼康彰, 2015, 『樹園地周辺における耕作放棄地および防護柵がイノシシ生息地の集塊性・連続性に及ぼす影響』農業農村工学会論文集。